

## 第2部

---

# 東京2020大会に向けて

---

大会後を見据えたCHIBAの取り組み

---



# オール千葉の体制づくり

## 1

## 取組方針と推進体制

### 基本方針の策定

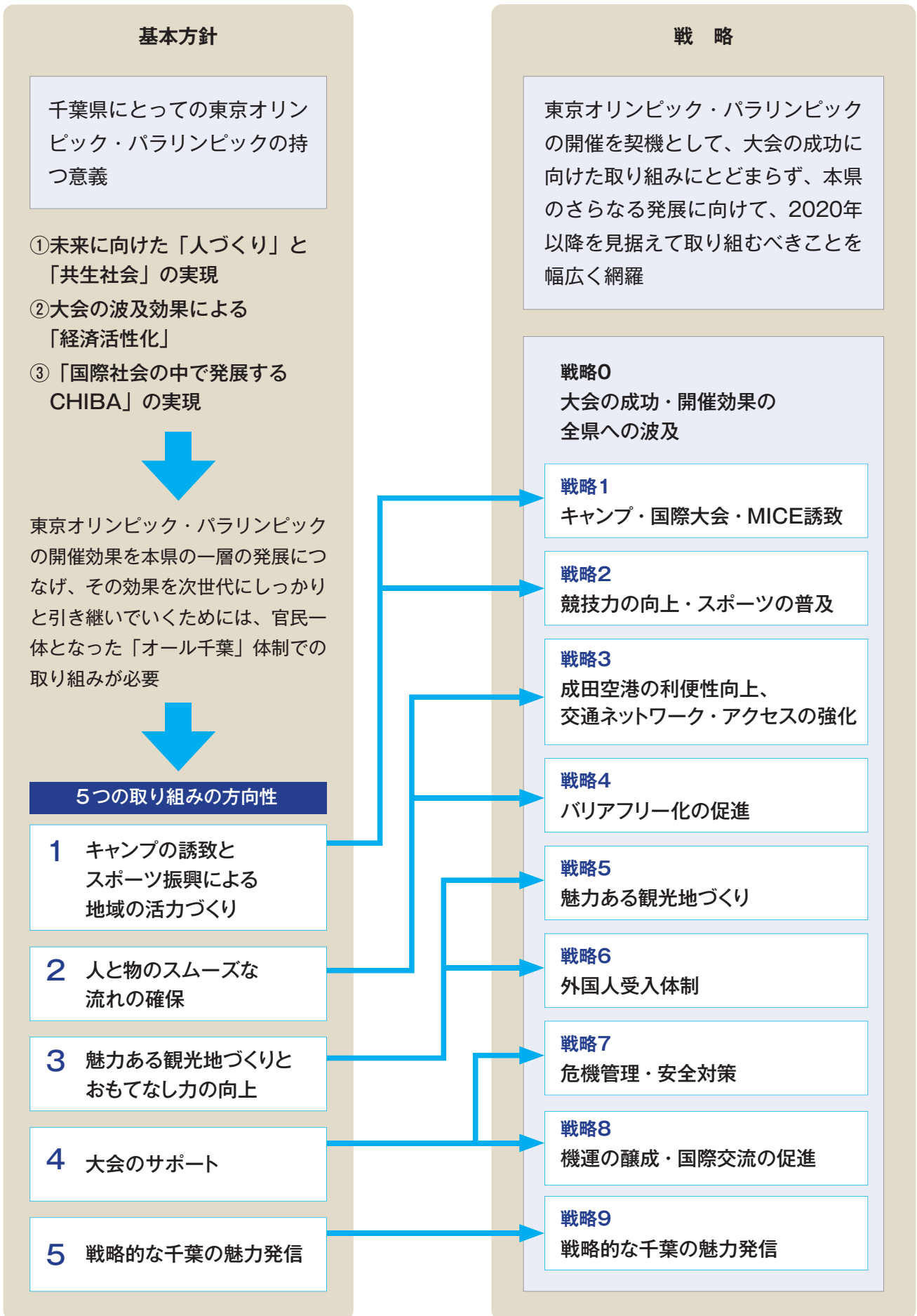
2013（平成25）年9月、アルゼンチンのブエノスアイレスで開かれたIOC総会で2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市が東京に決定した。

千葉県では、オリンピック・パラリンピックの開催は、国や世代、文化を越えた交流を通じて、日本を夢や希望にあふれた社会にする千載一遇のチャンスと捉え、1964（昭和39）年の東京オリンピック

で先人たちが素晴らしい財産を残してくれたように、私たちだけでなく次世代を担う子どもや孫たちが恩恵を得られるよう、千葉の魅力を高める未来への投資を行い、本県の発展につながる「宝」づくりに取り組んでいくこととした。そして、千葉県は2013年11月に千葉県知事を本部長とする「千葉県東京オリンピック・パラリンピック戦略推進本部」を設置した。翌2014年4月には「2020年東京オリンピック・パラリンピックに係る基本方針策定協議会」を設置して具体的な施策の内容を検討し、同年7月



オール千葉初の機運醸成イベント（イオンモール幕張新都心）



に「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組の基本方針」を策定。企業、団体、大学、行政などが、互いに取組みの方向性を共有しながら連携し、相乗効果を生み出していくため、「オール千葉」体制で取り組むこととした。

### 「2020年東京オリンピック・パラリンピック CHIBA推進会議」の設置と千葉県の戦略

基本方針の策定を受けて、2014年11月、経済、交通、観光、スポーツ、文化、国際交流、行政の各分野を代表する有識者の参画を得て「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」を設置した。また、推進会議の下に9つの専門部会を設置し、具体的な取組みについて検討を行い、翌2015年3月には「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」を策定した。

この戦略は、基本方針の5つの方向性に沿って、①「キャンプ・国際大会・MICE誘致」、②「競技力の向上・スポーツの普及」などの9つの戦略で構成され、オリンピック・パラリンピックの成功に向

けた取り組みにとどまらず、県のさらなる発展に向けて、2020年以降を見据えて取り組むべきことを幅広く示した。

2015年6月、オリンピック3競技（フェンシング、テコンドー、レスリング）が千葉市の幕張メッセで開催されることが決定。県内での開催決定に伴い、2015年10月には新たに「戦略0」として、「大会の成功・開催効果の全県への波及」を追加するとともに、既存の9戦略の改訂を行った。

本戦略に基づき、各主体がそれぞれ相互に連携し、大会後も見据えた、本県の持続的な発展につながるさまざまな取り組みが県内各地で展開された。



2020年東京オリンピック・パラリンピック CHIBA推進会議（2019年3月）



## 「オール千葉」連携強化の取り組み

### みんなで応援！千葉県経済団体協議会の設立

2017年7月、千葉県内の経済団体が一丸となり、オール千葉体制のもと東京2020大会等の成功と、その取り組みを通じて活力ある地域づくりに資することを目的に、「みんなで応援！千葉県経済団体協議会」が設立された。同協議会は、県内の主要経済6団体（千葉県経営者協会、千葉県経済同友会、千葉県経済協議会、千葉県商工会連合会、千葉県中小企業団体中央会、千葉県商工会議所連合会）によって構成され、①団体横断的・統一的に取組可能な独自の活動、②行政との連携・協力による活動、③他

分野の団体等との連携による活動を柱に、「おもてなし」（声かけ・サポート運動や美化活動の展開、講習会の開催）、「機運の醸成」（競技紹介パネル・ポスターの掲示やスポーツ応援運動の展開）、「情報の発信」（県内企業の取組状況の一体的発信）の事業を展開した。

### オール千葉初の「千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！」

2017年8月には、千葉県、千葉市、みんなで応援！千葉県経済団体協議会、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会の共催により「千葉にオリンピ



オール千葉初の機運醸成イベントにおけるテコンドーのデモンストレーション



オリンピック・パラリンピック等経済界協議会が開催したボッチャ体験会（イオンモール幕張新都心／3年前イベント）



「千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！」のチラシ





千葉交響楽団によるオープニングアクト



車いすフェンシングステージ



車いす体験会



学生×よしもと2020夢を語ろう！



音と光の体験型メディアアート

「PLAY THE WHEELS」

千葉市が3年前カウントダウンイベントの一つとして実施。スピーカーやLEDをつなげた特別なスポーツ用の車いすに乗り、車輪の動きに合わせて奏でられる音や光の変化を楽しんだ。

ック・パラリンピックがやってくる！」をイオンモール幕張新都心で開催。東京2020大会に向け、千葉県、千葉市、経済団体等が連携して取り組んだ初の機運醸成イベントとなった。

会場内では、県内開催競技であるテコンドー、フェンシング、車いすフェンシングの競技紹介ステージに加え、千葉交響楽団による演奏やチャリリーダー

体験会など、さまざまなイベントが実施された。また、オープニングセレモニーではスポーツ庁の鈴木大地長官、2016年リオデジャネイロオリンピックのレスリング金メダリスト川井梨紗子選手などがゲストとして登場したほか、吉本興業の人気芸人が各イベントに登場し、会場を盛り上げた。



官民学連携セミナー「オール千葉で盛り上がろう！」(2018年)

## 県内の経済団体との連携

2018年1月、千葉商工会議所において官民学連携セミナー「オール千葉で盛り上がろう！～東京2020大会の成功とレガシーの創出に向けて～」を千葉県、千葉市、一宮町、みんなで応援！千葉県経済団体協議会の共催で開催した。セミナーでは、(公財)日本障がい者スポーツ協会の高橋秀文常務理事による講演「共生社会実現への道」や、千葉市在住のパラバドミントンの村山浩選手によるパラアスリート雇用についての講話、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会や千葉大学・帝京平成大学の学生による取組事例の発表、競技会場やホストタウンにおける事例紹介が行われ、約200人が来場した。

そして東京2020大会開催を直前に控えた2021年7月には、新型コロナウイルス感染症の影響によって経済社会が様変わりした中で、オンラインセミナー「オリンピック・パラリンピック開催に向けてのこれまでの取り組みの成果と今後の千葉市経済の活性化に向けて」を開催(千葉商工会議所主催)した。基調講演では、神谷俊一千葉市長がこれまでの取り組みを通じた千葉市の都市としての成長について総括し、パネルディスカッションでは、千葉大学の神野真吾准教授が文化芸術を専門とする立場から「そこにしかない要素の魅力」に気づくことの大切さについて具体的な事例を通して説明。さらに千葉商工会



千葉商工会議所の会報誌「夢シティちば」  
2021年7月号(サーフィン特集)

議所の粟生雄四郎副会頭は、おもてなしやまちづくりなど、経済界としての取り組みの成果を発信した。

また千葉商工会議所は、会員企業向けに毎月発行している会報誌「夢シティちば」において、千葉県、県立中央博物館と連携して、県内で開催される8競技のルールと見どころ、東京2020大会に出場する選手や千葉のスポーツ史などを紹介する記事を大会に向けて連載。開催前には、この連載記事を1冊にまとめた「ちば応援ガイドブック」を発行し、競技の普及や大会に出場する選手の応援につなげた。

## 「スポーツを応援するチーバくん」でいっばいに

ラグビーワールドカップ2019日本大会をはじめとする国際スポーツ大会の開催や事前キャンプの誘致・受け入れ準備などが進められる中、2019年1月、千葉県はスポーツをオール千葉で応援する機運を一層高めるため、千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」の新しいデザインとなる「スポーツを応援するチーバくん」を発表した。2010年の「ゆめ半島千葉国体」「ゆめ半島千葉大会」のマスコットキャラクターとして誕生して以来、多くの人に愛されている「チーバくん」が、スポーツを“する”“みる”“ささえる”人を応援し、みんなでスポーツを盛り上げていくイメージで制作された。

これを受けて、「みんなが応援！千葉県経済団体





千葉県・千葉市・千葉商工会議所の連携により、千葉銀座商店街に掲出された東京2020大会エンブレムのバナーフラッグ（左）とスポーツを応援するチーバくんのバナーフラッグ（右）



「ちば応援ガイドブック」



スポーツを応援するチーバくんを使用したグッズ

協議会」は、2019年3月のオリンピック500日前イベントを契機として、千葉県内を「スポーツを応援するチーバくん」と県内開催競技のチーバくんでいっぱいにする運動を推進。その一環として、ステッカーや卓上のぼりを制作し、企業の店舗やオフィス、社用車などに展開した。

また同年7月には、開催1年前に合わせて、東京2020大会エンブレムとスポーツを応援するチーバくんのデザインを活用したバナーを千葉駅周辺の商店街に掲出するなど、経済界や行政などが連携して一体感のある取り組みが展開された。



JOC パートナー都市のロゴ

### JOCパートナー都市としての取り組み

2016年2月、千葉県と日本オリンピック委員会（JOC）は、国際競技力の向上やオリンピック・ムーブメントの推進、スポーツ振興等で積極的に連携・協力することを目的に「JOCパートナー都市協定」<sup>▶1</sup>を締結し、同年から県内の公立中学校の2年生を対象とした「JOCオリンピック教室」（p.182参照）を開催するなど、各種オリンピック・ムーブメント推進事業を実施している。

同協定の締結対象は、国際スポーツ大会や国際スポーツ会議の開催経験を持つ都市、JOCとオリンピック・ムーブメント事業を長期的に連携・実施することを具体的なスポーツ施策に取り入れた都市で、千葉県は20番目の締結都市となった。なお、同協定では、東京2020大会以降もJOC・協定都市の双方にとってメリットのあるオリンピック・ムーブメント

▶1 2001年度、自治体が所有するスポーツ施設をトップアスリートの強化に活用し、競技力向上を図るためにスタート。初期の目的が概ね達成された2018年度にパートナー都市の位置づけが見直された。





フェンシング三宅諒選手によるJOCオリンピック教室（浦安市立浦安中学校、2016年）



第15回JOCスポーツと環境・地域セミナー（2019年）



ビーチクリーン・キャンペーンの紹介

ント推進事業を実施していくことになっている。

2019年10月には、連携事業の一環として「第15回JOCスポーツと環境・地域セミナー」（JOC主催、幕張メッセ）が開催され、県内のスポーツ関係者など約120人が参加した。

JOCは、「スポーツと環境の関わり」をテーマに環境問題がもたらすスポーツへの影響について参加者に訴えかけたほか、東京2020組織委員会が取り

組んでいる「みんなの表彰台プロジェクト」、「スポーツごみ拾い」などを紹介。また千葉県は、県内の環境保全に向けた取り組みとして、2019年から実施している「ビーチクリーン・キャンペーン」や「ちばアクアラインマラソン」における木更津市内の住民による会場周辺の花植え活動「花いっぱい運動」、清掃活動「クリーン作戦」などを紹介した。